第2550地区　ウクライナ支援に動く

さる、2月24日ロシアが主権国家であるウクライナに軍事侵攻しました。事情はどうであれ力による現状変更は認められません。その結果ウクライナでは一般市民が家屋を焼き払われ、日常生活を奪われ命まで落とす事態になっています。国際ロータリーではいち早く人道支援に乗り出し、4月には世界中のクラブにその支援の輪を広げました。第2550地区では国際ロータリーの呼びかけに応じて石田ガバナーは財団活動資金(DDF)より2万ドルの支出を致しました。

また、厳しい冬を前に9月に入り破壊された家屋を自ら再建するための仮設住居(モジュラーハウス)並びに消防車、救急車等をロータリー財団の災害救援基金で支援しましょうと、全国の地区が立ち上がり、協同してウクライナを支援する事になりました。当地区では、先行している第2820地区の指導をいただきモシュン村プロジェクトに参画しました。

このプロジェクトは、300棟のモジュラーハウスの設置を目標に取組んでいます。

災害救援基金は一地区、一回で最大2.5万ドルをmaxとして災害にあった地域を支援するための基金です。今回佐貫ガバナーの下、当地区では初めての取組みです。

以下にモジュラーハウスの状況を示します。

資金の流れ

第2550地区が財団に災害救援資金の申請　→　受理　→　承認　→　地区口座に入金　送金書類を財団に提出　→　先方(D2232)ウクライナキーウ市ロータリークラブ指定のモジュラーハウス製造のインディプススチール社に直接送金　→　契約書締結　→　製造・検査　→設置完了となります。

当地区の支援で2棟のモジュラーハウスが提供されます。

ユーチューブに動画が掲載されています。

ご覧ください。

2022年2月～4月のウクライナの状況です。



モシュン村

<https://www.youtube.com/watch?v=Tnjr1z_2z3U>



ウクライナのロータリアンからのメッセージです。

(四日市西ロータリークラブ提供)

<https://www.youtube.com/watch?v=6l-hP1GZo84>